

# 令和4年度病害虫発生予察情報 発生予報第2号

令和4年5月31日  
発表：福島県病害虫防除所

## 1 普通作物

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水 稲	いもち病 (葉いもち)	全 域	平年並	平年並	田植時期は、平年並と予想される。 天候予報（仙台管区气象台5月19日発表）によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されている（±）。	補植用置苗は本病の伝染源となるため、速やかに処分する。 窒素肥料の多用をさける。
	イネドロオ イムシ	全 域	やや早い	平年並	有効積算温度によるシミュレーションでは、幼虫のふ化盛期は平年よりやや早いと予想される。 天候予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている（-）。 前年の発生は場割合は高く、発生程度の高いほ場もみられた（+）。	発生が目立つ場合は薬剤による防除を行う（要防除水準：加害盛期に3～4齢幼虫が10頭/株以上寄生）。特に、チアメトキサム剤に対する感受性低下が確認されているため、それらの薬剤を使用したほ場では注意する。 移植が遅れた場合は被害が大きくなりやすいので注意する。
	イネヒメハ モグリバエ	全 域	—	やや少ない	天候予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている（-）。	深水管理や直播栽培では被害が大きくなりやすいので注意する。
	イネミズゾ ウムシ	中通り 会 津  浜通り	—	平年並  <b>やや多い</b>	5月中下旬の調査では、発生ほ場割合（発生程度「少」以上）は中通り、会津では平年並であったが、浜通りで平年よりやや高かった（+）。	<b>成虫の寄生が、100株当たり40頭以上確認される場合や、水田内のほぼ全葉に食害が確認される場合は、水面施用剤を散布する。</b>
	イナゴ類	全 域	—	平年並	近年、中通りで発生程度の高いほ場が散見されているが、発生ほ場割合やすくい取り数は平年並で推移している（±）。	例年発生が多いほ場では、6月中旬～7月上旬に孵化幼虫を対象に薬剤散布を行う。
麦 類	赤かび病	全 域	—	平年並	天候予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されている（±）。	発病した場合は刈り分けを行うなど、被害粒の混入を防ぐ。 また、収穫後は速やかに乾燥・調製を行う。 特に、「ゆきちから」は赤かび病に対する抵抗性が「やや弱」のため、収穫前に発病がないか確認する。
	うどんこ病	全 域	—	平年並	5月中旬の調査では、各地方とも発生は確認されなかった（±）。	薬剤防除を行う場合は、収穫前日数に注意する。

注) 予報の根拠の中で（+）は多発要因、（-）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

## 2 果樹

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
リンゴ	斑点落葉病	全 域	—	平年並	5月下旬の新梢葉での発生ほ場割合は平年並であった(±)。	
	腐らん病	全 域	—	平年並	5月下旬の発生ほ場割合は平年よりやや少なかったが、発生程度が高い園地が一部で見られた(±)。	枝腐らんは見つけしだい健全部5cm以上含めて切り取る。 胴腐らんは見つけしだい周囲の健全部まで5cm広く削り取り、トップジンMペーストの原液を塗布する。
	キンモンホソガ	全 域	—	平年並	5月下旬の新梢葉被害は平年同様に確認されなかった(±)。	
	アブラムシ類	全 域	—	平年並	5月下旬の新梢寄生の発生ほ場割合は平年並であった(±)。	
	ハダニ類	中通り 会 津	—	平年並 やや多い	5月下旬の新梢葉寄生の発生ほ場割合は中通りでは確認されず(±)、会津では平年より高かった(+)	<b>要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、殺ダニ剤を散布する。</b>
モモ	灰星病	中通り	—	平年並	5月上旬の花腐れの発生は確認されなかった(±)。	本病による枝枯れは見つけしだいせん除し、園外に持ち出すなど適切に処分する。
	せん孔細菌病	中通り	—	平年並	5月上旬～下旬の春型枝病斑の発生ほ場割合は平年並であった(±)。 5月下旬の新梢葉での発生ほ場割合はやや少なかった(-)。 天候予報(仙台管区気象台5月19日発表)によると、向こう1か月の降水量は平年より多い確率が40%と予測されている(+)	り病部(枝・葉・果実)のせん徐を徹底する。 薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意する。 本病の発生が多い場合は、仕上げ摘果後、直ちに袋かけを実施する。
	モモハモグリガ(第1世代成虫)	中通り	—	平年並	5月下旬の新梢葉被害の発生ほ場割合は平年並であった(±)。	第2世代幼虫発生初期に防除を実施し、次世代の密度低下を図る。
	アブラムシ類	中通り	—	平年並	5月下旬の新梢寄生は確認されなかった(±)	
	ハダニ類	中通り	—	やや多い	5月下旬の新梢葉寄生ほ場割合は平年よりやや高かった(+)	<b>要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、殺ダニ剤を散布する。</b>

ナシ	黒星病	全域	—	平年並	5月下旬の果そう基部病斑の発生ほ場割合は平年並であった(±)。 5月下旬の新梢葉での発生ほ場割合はやや少なかった(—)。 天候予報(仙台管区气象台5月19日発表)によると、向こう1か月の降水量は平年より多い確率が40%と予測されている(+)	果そう基部病斑や発病葉・果実は、徹底して除去し、園外に持ち出すなど適切に処分する。
	アブラムシ類	全域	—	平年並	5月下旬の新梢葉寄生の発生ほ場割合は平年並であった(±)	
	ハダニ類	中通り 浜通り	—	平年並 やや多い	5月下旬の新梢葉寄生の発生ほ場割合は中通りでは平年同様確認されず(±)、 <b>浜通りでは平年より高かった(+)</b> 。	<b>要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)に達した場合は、殺ダニ剤を散布する。</b>
果樹共通	カメムシ類	全域	—	平年並	調査ほ場への飛来や果実被害(モモ)は平年同様に確認されなかった(±)。 指標植物(サクラ)への飛来数は平年並であった(±)。	越冬世代成虫による加害は幼果期から始まるため、特に山沿いの園地ではよく観察し、飛来を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。

注) 予報の根拠の中で (+) は多発要因、(—) は少発要因、(±) は平年並要因であることを示す。

3 野菜・花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
夏秋トマト（被覆栽培）	灰色かび病	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	発病葉は摘除し、防除を徹底する。 多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。
	アブラムシ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。 施設開口部をネット被覆していない場合、有翅虫の飛込について注意する。
	コナジラミ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
キク（露地栽培）	白さび病	全 域	—	平年並	育苗床からの持ち込みによると考えられる発生が見られたが、発生ほ場割合は平年並であった（±）。	多湿条件が続くと発病しやすくなるので、予防散布に努める。 品種により発病に差があるので、発病しやすい品種では防除を徹底する。
	アブラムシ類	全 域	—	やや少ない	発生ほ場割合は平年より低かった（－）。	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
	ハダニ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	低密度時から防除を実施する。 抵抗性の発達が懸念されるため、防除薬剤の選択に注意する。
	アザミウマ類	全 域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	ほ場をよく観察し、低密度時から防除を徹底する。
	ハモグリバエ類	全 域	—	少ない	発生ほ場割合は、平年より低かった（－）。	上位葉での発生に注意し、低密度時から防除を実施する。
リンドウ ※過去7年間の平均値と比較	葉枯病	全 域	—	例年並	発生ほ場割合は、例年並であった（±）。	多湿条件で発生が多くなるので、予防散布に努める。
	ハダニ類	全 域	—	例年並	発生ほ場割合は、例年並であった（±）。	ほ場をよく観察し、低密度時から防除を実施する。
	リンドウホソハマキ	全 域	—	例年並	発生ほ場割合は、例年並であった（±）。	春先の高温の影響により、被害拡大が例年より早まる可能性がある。ほ場をよく観察し、発生が多い場合は速やかに防除を実施する。

注) 予報の根拠の中で（+）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病害虫

<p>夏秋トマト（被覆栽培）</p>	<p><b>■タバココナジラミと黄化葉巻病（TYLCV）</b></p> <p>2006年にタバココナジラミ・バイオタイプQの発生が本県のトマトで確認されています。現在までに、中通り、会津南部、浜通りで本種の発生が確認され、また、本種が媒介するトマト黄化葉巻病ウイルス（TYLCV）も中通り北部、会津南部、浜通り南部で確認されています。</p> <p>昨年も黄化葉巻病の発生が確認されています。本病はウイルス病であり、タバココナジラミの媒介により感染します。汁液伝染、種子伝染、土壌伝染はしません。また、タバココナジラミ以外のオンシツコナジラミ等による虫媒伝染はしないため、媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底することが重要です。</p> <p>本病の発生を認めた場合、侵入・脱出防止を心がけ、ほ場内での発生密度が高くないように発生初期から適切な防除を行ってください。</p> <p>また、未発生地域においても、購入苗等により持ち込むおそれがありますので注意が必要です。</p> <p>病害虫防除所HPに掲載している病害虫防除情報「注意喚起 黄化葉巻病（TYLCV）のまん延防止対策」、病害虫ライブラリー野菜花き類「コナジラミ類」もご覧ください。</p> <p>URL：<a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/450800.pdf">https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/450800.pdf</a></p> <p>URL：<a href="https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/433113.pdf">https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/433113.pdf</a></p>
<p>野菜・花き共通</p>	<p><b>■オオタバコガ</b></p> <p>フェロモントラップでの誘殺が中通り北部、南部、浜通り北部で確認されています。中通り北部、浜通り北部では5月1半旬から誘殺が確認され、発生時期がやや早くなっています。本種はトマトやキクの新芽や果実の内部に潜り込んで食害します。現時点でフェロモントラップの誘殺数は少なく経過していますが、特に露地栽培や防虫ネット未展張の施設で被害が予測されるので、生長点付近をよく観察し、寄生や被害が見られた場合は、速やかに防除を行ってください。</p>

より詳しい発生状況や防除対策は、  
 福島県病害虫防除所ホームページ<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>をご覧ください。  
 お問い合わせはTEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727またはe-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jpへお願いします。